

# 令和6年度事業報告

## 障害者支援施設 四ツ葉園

令和6年度は退所者が3名(5月男性53歳入院・7月女性77歳介護施設入所・10月女性80歳介護施設入所)、新規利用は2名(11月女性17歳・3月女性40歳)で、令和7年3月31日現在の在籍者数は79名(男性51名、女性28名)となっている。

利用者の平均支援区分は5.26(男性5.47・女性4.89)と年々重度化しており、特に全体の59%の47名の方が強度行動障害を有している。そのため、11月より重度障害者加算を取得し、強度行動障害に特化した支援を行っている。利用者の平均年齢は下がっているが、65歳以上の5名の方については関係機関と連携しながら、早期の介護保険への移行を目指している。また、障害の重度化に伴い、身体障害手帳所持者11名に加え、全員が何らかの医療を定期的に受けている状況である。

新型コロナウイルス感染症については、いま断続的に流行を見せており、12月に感染対策向上加算を取得し対応している。

短期入所、日中一時支援については定期的な利用があり、健康支援として4月より食事提供加算を取得した。強度行動障害を伴う方の利用申し込みについては、個室の空きがなく受入れをお断りすることもあった。

こうしたことから、利用状況は安定しているものの、強度行動障害等、専門性の必要な個別支援には苦慮しているところである。新規入所の希望については、重度障害に対応できる個室の空きがないため十分には答えられない状態となっている。

< 参考 最近5年間の利用状況 >

### 利用者数

3月末日

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
男	53名	54名	53名	52名	51名
女	27名	28名	28名	28名	28名
計	80名	82名	81名	80名	79名

### 平均年齢

3月末日

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
男	42.6歳	42.9歳	44.3歳	43.6歳	44.4歳
女	54.6歳	50.2歳	50.3歳	51.3歳	48.8歳
全体	46.7歳	45.4歳	46.4歳	46.3歳	45.1歳

### 平均障害支援区分

3月末日

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
男	4.81	5.00	5.06	5.19	5.47
女	4.30	4.52	4.57	4.67	4.89
全体	4.64	4.71	4.81	5.01	5.26

(1) 身体拘束適正化・虐待防止委員会

新川会身体拘束適正化・虐待防止委員会	5 / 22 【第三者委員会】 9 / 18      2 / 25
委員会報告 法人内共有	6 / 8
新川会身体拘束適正化・虐待防止研修会	7 / 13      12 / 14      2 / 25
臨時委員会(立山町からの訪問調査を受けて)	10 / 25
四ツ葉園研修会	3 / 12 廊下に利用者向け虐待防止ポスターを設置

(2) 業務継続計画について

災害時業務継続計画	R 6 年度版作成 9 / 14 新川会共有 9 / 18 委員会 11 / 6 災害時避難訓練(上市町消防署来園指導) 1 / 18 法人内共有 3 / 19 机上訓練 夜間想定避難訓練の実施
感染症業務継続計画	R 6 年度版作成 感染症及び食中毒の予防並びにまん延の防止のための指針作成 7 / 24 委員会 9 / 14 新川会研修(かみいち総合病院より外部講師) 10 / 24 外部研修に参加(かみいち総合病院) 1 / 18 法人内共有 新規職員入職時及び感染症罹患者発生時にはその都度、感染防止について実施も含め伝達

(3) 加算について

- 4 / 1 より 短期入所 食事提供体制開始
- 11 / 1 より 施設入所、短期入所 重度障害者支援 ・ 加算開始
- 12 / 1 より 施設入所 障害者支援施設等感染対策向上加算開始

(4) 重要事項説明書更新について

- 保健衛生品について、公費負担は緊急時使用時のみと追記
- 12 / 1 より 食事時トロミ剤使用者の一部自己負担 開始

(5) 苦情申し立てについて

- 4 名の利用者(家族)より、計 9 件。いずれも解決済み

## (2) 事故・ひやりはっと報告について

事故報告は令和5年度より56件の減、ひやりはっと報告は25件の増(別紙)であった。全体として「ひやりはっと」をこまめに報告し共有を速やかに行い、事故を未然に防げたものと思われる。服薬関係については、職員が準備段階で気づいたもの6件も含まれている。また、服薬数が増えていることへの対応として、職員シフトを変更し服薬支援に人員を手厚くできる体制をとった。

## (3) 職員の資質向上

介護福祉士資格取得について法人としてバックアップし、1名が新たに取得し、介護福祉士は正職員31名中17名。介護福祉士指導者講習も1名が受講し、専門的な知識をもって職員や実習生の指導にあっている。また、がんばる介護職員表彰を1名が受賞。

各種研修参加職員は、全体職員会議にて復命報告し学びを共有した。

委員会体制を継続し、若手職員が意見を言いやすい環境を整え、課題や想いを共有し互いに学びながら支援を行った。

## (4) 地域連携について

### ・地域連携推進会議

令和6年10月17日に第1回目の会議を開催した。事業内容の説明と地域交流の取り組みを報告。園内の見学と喫茶コーナーで交流し、意見交換を行った。

### ・四ツ葉園やまゆりの会(利用者と職員によるボランティアグループ)活動

これまでの活動に加えて音楽療法を通じて「上市町シルバー人材センター講習会(3/27)」「上市町地区公民館ふれあいいいきいきサロン(4回 6/1、6/16、7/8、7/10)」で活動した。

### ・ゆめ水族園

法人内事業所での開催

上市町、立山町、舟橋村、滑川市各社会福祉協議会と共催し、各市町村で計2,000人来場

### ・アマゾンウィッシュの活用 現在までに3件の寄付があった。

## (5) 実習生、ボランティアの受入れについて

保育士実習、介護福祉士実習、社会福祉士実習と実習内容の異なる実習受け入れがあったが、職員それぞれの専門性を活かして実りのある実習になった。また、園で実習した学生のうち1名を当法人の令和7年度新規職員として採用した。

## (6) 利用者支援について

園のガイドラインに基づき利用者本人と一緒に自身の意向を見つけていけるよう、行動特性を踏まえた意思決定支援を推進してきた。また、個別支援会議に本人が参加し、サービス提供について話し合いがもたれた。意思決定支援については、外部研修を受講復命し職員間で共有した。

令和6年度の主な行事は次のとおりである。

月	行 事
4	お花見 健康診断
5	夜間想定避難訓練 選択社会見学(フルーツ狩りへ出かけよう、ファミリーパークへ出かけよう)
6	歯科検診 選択社会見学(野外クッキングを楽しもう)
7	歯科検診 七夕の会 選択社会見学(ショッピングセンターで買い物しよう) 給食セレクトメニュー(親子丼定食 or 中華丼定食)
8	納涼祭 夜間想定避難訓練 選択社会見学(新幹線に乗ろう、サーカスを楽しもう)
9	消防連携訓練 交通安全マスコット寄贈 選択社会見学(水族館に出かけよう) 給食セレクトメニュー(塩ラーメン or 味噌ラーメン)
10	園祭 健康診断 インフルエンザ予防接種
11	災害時想定招集訓練 インフルエンザ予防接種 新型コロナワクチン接種 選択社会見学(温泉に出かけよう、ファミリーパークへ出かけよう)
12	ノクチュール演奏会 期末の集い もちつきの会 選択社会見学(スポーツ観戦を楽しもう)
1	新年を祝う会
2	節分の会
3	夜間想定避難訓練 ひな祭りの会

## 地域生活相談室

はじめに

地域で暮らしている障害者（児）と、家族に対し、相談を通して生活に必要な情報の提供と、それに伴う生活向上のための支援を行った。

また、精神的負担感を感じやすい業務であるため、引き続き相談室内でのケースの共有やピアスーパービジョンを行い、バーンアウトを防ぐとともに、相談支援技術における専門スキルの向上を図っていきたい。

### （１） 計画相談

計画相談支援	488 件（成人 313 件	児童 175 件）	前年度 466 件
モニタリング	720 件（成人 546 件	児童 174 件）	前年度 685 件

令和 6 年度の計画相談の更新件数は、前年度と比較して 22 件増えた。

モニタリング件数は、目標を 600 件としていたところ、720 件と大きく伸ばすことができた。

報酬（者、児 計画、モニタリング）でみると令和 5 年度 18,879,900 円で令和 6 年度 25,546,970 円（見込み額）であった。前年度比 6,667,070 円増収だった。

### （２） 一般相談

家庭での粗暴行為がエスカレートしたケース、保護者の入院や認知症の発症により家庭状況が変化したケース等は、緊急的に介入したが、サービスが定着し生活が安定するまで時間がかかった。特に今までサービスを利用したことがない人の場合、サービス利用に慣れるまで丁寧な支援が必要であった。

引きこもりのケースには、障害特性の理解と本人との関係作りから始まるため、時間がかかった。

障害者虐待の案件については、関係機関と連携し本人の安全確保を優先し、その後の安心した暮らしに向けての支援を行った。

### （３） 障害児相談

ミュージック・ケアを保育所入所前の子育てサークル等で 4 回実施、立山町みらいぶで 1 回、滑川市子ども図書館で 1 回の計 6 回、実施した。

障害児支援サークル「星の子サークル」（立山町）の活動でミュージックケア、クリスマス会を実施した。

( 4 ) 地域生活支援拠点

コーディネーター業務

相談対応、緊急的な対応が必要となる者の支援、地域生活支援拠点拡充に関する協議を実施した。

実態把握訪問 0件

緊急受入 0件

( 5 ) その他

成年後見制度の利用に係る相談や申立に係る諸手続きのサポート、日常生活自立支援事業の利用のための情報提供やサポートを行った。その他に、障害年金、療育手帳等各種申請や手続きの相談を受け助言や支援を行った。

11月15(日)つるぎふれあい館にて滑川・中新川圏域地域福祉研修会の実施

令和7年2月1日「自立生活援助」指定を受ける。

介護保険サービスへスムーズに移行できるよう、担当者会議で本人の情報等を引継ぎし連携した。「第2つつみだにの家」から男性利用者1名がグループホーム「シェアハウス笑美寿」に移行した。

障害児等療育支援事業(施設支援一般指導事業)を活用して滑川市内の事業所と合同で身体を動かす機会や交流を深めるきっかけを設けた。

## 新川会 共同生活支援室

### (1) 利用状況

令和6年度に男性1名が身体機能の低下から退所し、男性1名が入居している。20代から70代までの幅広い年齢の方が在籍している。日中活動先は一般企業(1名)、就労継続支援A型(2名)・B型(23名)、生活介護(1名)介護保険の通所介護富山型デイサービス(2名)となっている。

### < 参考 最近5年間の利用状況 >

利用者数

3月末日現在

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
男	18	18	20	20	20
女	9	9	8	9	9
計	27	27	28	29	29

(まえざわ男性6/7、かわはらだ男性7/7、つつみだに女性9/9、第2つつみだに男性7/7)

### (2) 利用者支援について

自立度が高い方が利用しているまえざわの家、かわはらだの家では、社会生活、対人関係のルールやマナー等の助言を行った。つつみだにの家、第2つつみだにの家の利用者については、基本的な生活習慣の習得に向けての支援、不安定時の声かけの仕方・タイミング等統一した支援を行った。

また、個別支援計画の作成にあたって、本人との面談や日頃のかかわりから利用者が感じるニーズ、利用者にとって本当に必要としているニーズを探りながらその意思を反映できるよう努めた。

高齢の利用者については、介護保険への移行のために成年後見制度の利用につなげたり、ケアマネジャーや相談支援専門員と適宜情報共有しながら支援にあたった。

### (3) 人権の擁護について

個別支援会議や虐待防止委員会にて、一人ひとりの支援の振り返りをし、権利擁護に努めた。また、保護者が高齢、病気等により亡くなられ、成年後見人が選任されるケースが増えてきており、後見人との情報共有を図っている。

### (4) 職員の資質向上

今年度は、グループホーム等全国大会、北陸地区地域支援・相談支援部会合同研修会に参加した。内部研修では、全体職員会議等で研修報告などを行った。また、世話人研修会では、

セーナー苑のグループホームを見学し説明や質疑応答をするなかで、日頃の支援を振り返った。

#### (5) 避難訓練について

6月は地震を想定しての避難訓練を、11月・3月は火災を想定しての避難・消火訓練を実施し、利用者・世話人と共に災害時の対応、避難経路などの確認をした。

#### (6) 感染症防止対策について

検温（朝、夕）、手指消毒、マスク着用、食堂にパーテーションの設置等、基本的な感染対策は継続して実施しているが、5月、6月、8月、1月、2月に断続的に新型コロナウイルスやインフルエンザの罹患者が発生しており、それぞれマニュアルに従い対応にあたった。

#### (7) 関係機関との連携について

不適応行動や高齢化の対応として、日中活動の事業所や医療機関、介護保険サービス事業所、ケアマネジャーと随時情報共有、連携して支援にあたった。

#### (8) 地域との関係づくりについて

五百石地区社会福祉協議会・立山町社会福祉協議会との交流や、上市町社会福祉協議会障害者パラスポーツ交流会に参加した。

また、地域連携推進会議を開催し、地域からみたグループホームのあり方についてやグループホームの実情等の情報交換を行った。

## 障害福祉サービス事業所 雷鳥苑

### (1) 利用状況

これまで、40名定員の多機能型事業所を運営してきたが、利用者の減少に伴い10月から定員を10名減らし30名定員の多機能型事業所（生活介護13名、就労継続支援B型17名）の体制となった。継続的な利用が困難な方には訪問や電話等により支援しているが利用者の増加には至っていない。新規利用者の獲得が大きな課題となっている。一方で、平均工賃は受注量の増加や利用者数の減少もあり、はじめての2万円台が確保できた。

#### < 参考 最近5年間の利用状況 >

##### 1日あたりの平均利用者数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
生活介護	14.3人	15.2人	13.0人	14.6人	13.1人
就労継続支援 B型	15.9人	16.8人	16.1人	17.2人	14.2人

##### 平均工賃

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
就労継続支援 B型	9,894円	7,349円	13,877円	13,368円	21,216円

### (2) 利用者支援について

年間行事は、自治会利用者が中心となって、全員が参加できる内容を企画したり、日々の当番活動を行っており、やりがいをもって参加する姿が見られている。

2月は大雪の影響で送迎ができない日が3日あったが、在宅支援を実施し対応している。

## 令和6年度の主要行事

月	行 事	備 考
4	お花見	常願寺公園、常願寺ハイツ方面 生活介護 15名 就労 B 15名参加
7	遠足	生活介護 富山県中央植物園・きときと空港 就 労 B 富山県中央植物園・四季防災館 昼食 ますの寿司ミュージアム
8	夏祭り会	感染症の流行により9月に実施 苑内にてゲームや模擬店を設置 赤十字奉仕団、雷鳥苑ボランティア
	社会参加支援事業(音楽鑑賞会)	元気交流ステーションみらいが プロの演奏家を招いて開催
9	交通安全マスコット配布	交通安全マスコットの作成(かめのキーホルダー) 立山町交通安全協会と配布
	福祉学習会(障害についての勉強会)	立山中央小学校4年生
10	苑祭(秋のお楽しみ会)	保護者・赤十字奉仕団・雷鳥苑ボランティア アトラクション(バルーンアート)
	ゆめ水族園鑑賞	元気交流ステーションみらいが
11	立山町ボランティアまつり(ステージ発表) 立山町特産品まつり	ハンドベル演奏 9名参加 即売に参加
12	社会参加支援事業(障害者週間)	絵画(やさいハンコ)15名出展
	もちつき	食堂にてもちつきを実施
	期末の集い	食堂にて実施 下段地区社会福祉協議会と保護者会よりプレゼント 株式会社ホクデンよりケーキのプレゼント
	社会参加支援事業(フライングディスク大会)	立山町中央体育センター(武道館)
1	新年を祝う会	会食 書初めとすごろく大会
2	節分の会	豆まき
3	ひなまつりの会	お雛様

### (3) 生活介護メニュー

屋外散歩や屋内でのウォーキングマシンを使用した運動メニューと創作的活動メニューにより個別支援計画を立てている。アルミ缶等のリサイクル活動に参加している6人には、夏と冬(年に2回)に賞与を支給している。毎月取り組んでいる創作活動では一人ひとりが

季節の装飾を作り、玄関での展示や家族へのプレゼントにして好評を得ている。

#### (4) 就労継続支援B型メニュー

株式会社アスコから野菜の皮むき作業を受託しているが、野菜の受注量が増加したこともあり平均工賃を上げることができた。

環境センターでの軽作業、株式会社ホクデンのパンフレット封入作業、玉ねぎとにんにくその他畑作業を継続して行っている。

#### (5) 人権擁護について

虐待防止・身体拘束適正化委員会で話し合われた内容を事業所内で情報共有すると共に、全職員が虐待防止研修会に参加して人権擁護に努めた。

#### (6) 地域との関係づくりについて

立山町社会参加支援事業として、プロの音楽家を招いた音楽鑑賞会やフライングディスク大会等を開催し、年齢や障害種別に関係なく交流する機会を設けている。また、苑内行事でのボランティアの協力、立山まつりや特産品まつり、ボランティアまつり等、イベントへの参加をとおして地域住民とのふれあいを大切にしている。

#### (7) 職員の資質向上

中堅職員研修や災害救済ボランティア研修に参加している。全体会の内部研修に参加し、専門的な知識を広め、スキル向上に努めている。

## 障害福祉サービス事業所 さつき苑

### (1) 利用状況

令和5年度まで生活介護と就労継続支援B型を併せた多機能型で運営してきたが、令和6年度から定員30名の就労継続支援B型に特化した事業所として再スタートした。これに伴い、旧工房よつばから10名、さつき苑生活介護から4名の利用者を新たに加え、在籍28名での開始となった。令和6年度内での利用者の増減はなし。

### < 参考 最近5年間の利用状況および平均工賃額 >

1日あたりの平均利用者数				3月末日
令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
定員20名	定員20名	定員20名	定員20名	定員30名
13.2名	12.9名	13.1名	13.0名	26.6名

平均工賃				3月末日
令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
10,357円	19,602円	20,731円	24,700円	20,046円

### (2) 生産活動

藤堂工業から受注しているベアリング部品を整える作業は、上半期は定員に対し十分な量ではなかったが、下半期に入り受注量が増加するようになった。また、上市町の2軒の農家と業務委託契約を結び、苗箱運びや草刈り作業の農福連携事業を実施したり、9月からは隣接するホテル「つるぎ恋月」での客室清掃作業を開始した。これにより、年3回(8月、12月、3月)の賞与を支給する事ができ、平均工賃額も2万円台を確保することができた。

好評をいただいている自主製品「贅沢なよもぎ風呂」は従来通り販売店に納品したほか、当帰やラベンダーの生産量も増やすことが出来た。

また、近年始めた「焼き干し芋」は徐々に販路を拡大してきているところである。糸鋸を使用した木工製品も継続して作品作りを行っている。

即売会も増やし、自主製品を多くの方に知っていただく機会を作った。

作業種目が増えたことで、新たな作業に取り組む場面も多いため、個々の利用者の作業内容とのマッチングを評価し、新たな作業に挑戦できるよう支援していった。

### (3) 利用者支援について

就労支援事業所となったことから、令和5年度までに比べ主要行事に絞って実施した。チューリップフェアへの見学グループとファボーレへの買い物グループの選択外出を実施。また、夏には利用者全員がテクノホールで開催されたプロジェクションマッピングを鑑賞し、

初めて味わう映像と音楽に感動したひと時を味わうことができた。

さつき苑祭では収穫したさつまいもや里芋等を豚汁として提供したところ非常に好評であった。収穫した野菜や木工製品・入浴雑貨の自主製品の販売を行い保護者、地域の方に日々の活動を知ってもらう機会となった。

夏のお楽しみ会や、期末の集い、新年を祝う会などはこれまで通り実施。ゲームや会食を通しリフレッシュする機会ができた。

お盆期間中には、昼食にお好み焼き作りの調理実習を実施し、10月には上市町保健センターで開催された「ゆめ水族園」の鑑賞も行い不思議な空間を体感でき、利用者にも好評であった。

#### 令和6年度の主要行事

月	行 事	実 施 場 所
4	お花見	常願寺公園等
5	選択外出	チューリップフェア
7	社会生活体験外出	ディズニー・アニメーションイマーシブ、富山市科学博物館
8	選択外出	ファボーレ
	夏のお楽しみ会	さつき苑にて
11	さつき苑祭	さつき苑にて
12	期末の集い	さつき苑にて
1	新年を祝う会	さつき苑にて

#### (4) 職員の資質向上

全国社会就労センター総合研究大会 富山大会が開催され、工賃向上や就労支援について学んだ。権利擁護研修(意思決定支援)で学んだ内容を利用者支援に活かすよう努め、法人内で実施する全体職員会議で伝達研修を行った。

#### (5) 人権擁護について

虐待防止・身体拘束適正化委員会で話し合われた内容を事業所内で情報共有すると共に、全職員が虐待防止研修会に参加して人権擁護に努めた。

#### (6) 非常災害対策等について

LINE アプリを活用し、保護者も含め非常時の連絡ツールの確認を行った。8月には県障害者就業・生活支援センター主催の生活講座「防災について」に当苑の利用者3名が参加す

る機会を得た。火災だけではなく災害全般についての防災意識の向上に努めた。

( 7 ) 感染症防止対策

5月にグループホーム利用者5名のコロナ感染があったが、事業所内で感染拡大することはなく、事業所は通常通りサービスの提供を継続できた。感染防止策としてマスクの着用や手指消毒の継続と検温を含めた健康観察を継続しながら状況に応じた対策を継続中である。

( 8 ) その他

令和7年2月に上市町の助成金も活用し、老朽化した2階西側作業室の天吊業務用空調設備の更新を行った。

## 障害福祉サービス事業所 つつじ苑

### (1) 利用状況

定員は生活介護 12 名（現在 15 名）就労継続支援 B 型定員 18 名（現在 15 名）放課後等デイサービス 10 名（現在 14 名）である。

令和 6 年度の放課後等デイサービス新規利用者は 4 名だった。

退所者については生活介護で 3 名（他事業所に移行）、放課後等デイサービスで 4 名だった。（長期間利用がなかった、保護者の意向等）

長期欠席や継続して利用ができない方については、相談室との連絡を密にしながら支援を行った。

### < 参考 最近 5 年間の利用状況および平均工賃額 >

1 日あたりの平均利用者数 3 月末日

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
生活介護	11.0 名	10.3 名	11.5 名	12.6 名	10.3 名
就労継続	16.3 名	15.3 名	15.0 名	13.2 名	11.9 名
放課後デイ				5.6 名	7.8 名

平均工賃 3 月末日

	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
就労継続	5,202 円	5,755 円	5,936 円	8,148 円	8,265 円

### (2) 利用者支援について

通常の活動の他にも、昨年度に引き続き、スローエアロビック、3 B 体操、ヨガ教室を行い、積極的に体を動かす機会を提供した。サッカー教室や地域の読み聞かせサークルにも来苑してもらい絵本の読み聞かせや歌、手品など実施した。

10 月には法人がレンタルしたプロジェクションマッピング「ゆめ水族園」を鑑賞して楽しんだ。

また、今年度から、滑川市子ども図書館へ行き、パネルシアター等を鑑賞する機会を定期的に行った。

### 令和6年度の主要行事

月	行 事	実 施 状 況
4	お花見	行田公園で実施。
6	遠足	KOKO 黒部等
7	七夕の会	屋台風の食事
10	つつじ苑祭	竹風会によるステージ発表
11	調理実習	ホットケーキ作り
12	障害者週間出店（滑川：エール）	利用者手作り製品販売
	もちつき	食堂でもちつきをおこなう
	期末の集い	利用者が女神役になりキャンドルサービスを行った
1	新年を祝う会	成人者1名をお祝いする
2	節分の会	五平餅作りを行う
3	ひな祭り会	パンケーキでひな人形作りを行う

#### （3）生活介護

日中活動として行田公園や滑川市スポーツ健康の森までの散歩を行い、体を動かした。荒天の場合は、社会福祉センター2階の大会議室を利用してウォーキング、トランポビクス、ボールエクササイズを行った。毎月、壁面装飾作りも行った。生産活動として（株）滑川市交通安全協会やサンフーズの広告封入作業を行った。8月と12月に賞与を支給した。

#### （4）就労継続支援B型

令和6年度の収入は1,385,604円（前年比426,316円減）だった。平均工賃は、令和6年度8,265円（令和5年度8,148円）だった。

作業種目については、滑川市からの地下道清掃の請負（2箇所）、有限会社重松、第一繊維工業有限会社のタオル伸ばし作業、地域住民から依頼の除草作業等を行った。

#### （5）放課後等デイサービス

支援学校や地元の小学校へ迎えに行き、保護者が迎えに来るまでの数時間を支援している。夏休み等の長期休みの際は、朝から夕方まで支援を行った。

日々変わっていく子どもたちの特性に合うように、運動や創作活動の機会を提供し、安心して過ごせるような場所になるように支援を行った。

(6)人権の擁護について

個別支援会議や虐待防止委員会にて、一人ひとりの支援の振り返りをし、人権擁護に努めた。

(7)職員の資質向上

内部研修では、虐待防止研修等でグループワークを行い、知識を深め資質向上に努めた。

(8)新型コロナウイルス感染症感染防止対策について

感染対策として検温（朝、昼）手指消毒、マスク着用などの基本的な感染対策をおこなった。

(9)実習生の受入れについて

指定校から社会福祉士や介護福祉士を目指す実習生を3名のべ21日間受け入れた。

(10)地域との関係づくりについて

10月のつつじ苑祭で地元の団体にステージ発表をしてもらう等、コロナ禍以前の関係に戻りつつある。

## 四ツ葉園生活支援センター「小窓」

### (1) 全般的事項

令和6年4月1日より開所。

新たな活動場所で、不安を多く抱える利用者に見通しが立てやすいよう班活動(個別作業)を中心に支援をし、徐々に小窓の生活に慣れていただいた。現在は落ち着いて活動できるようになっている。しかし、送迎に関しては利用者同士の相性、他害行為もあり、車の同乗が難しい利用者の対応として、一便で行っていたところを二便に変更した。

### (2) 利用者状況 3月末日

- ・定員 20名 現員 16名
- ・平均年齢 29.0歳
- ・一日当たりの平均利用数 15.4名
- ・平均区分 5.2

### (3) 利用者支援について

支援困難者A(男性23歳)は、器物破損、他害行為があり、他の利用者に深刻な影響を与えている。現在、相談支援事業所、行動援護事業所、かみいち総合病院と担当者会議を定期的で開催し、在宅生活の継続のため、検討を重ねている。ご家族へのレスパイトや本人のリセットを目的とした入院を定期的にする予定となる。

在宅での生活が困難な利用者B(男性27歳)は、11/22より富山県立中央病院精神科病棟に入院、12/17かみいち総合病院精神科病棟へ転院、現在も入院しており、入院により3カ月以上経過、退院の見込みもないため3/6付けにて契約終了となる。そのため利用者数は1名減となり16名となる。

開所時より四ツ葉園利用者3名が日中小窓を利用していたが、3/10より小窓利用者C(女性40歳)は四ツ葉園入所となり、四ツ葉園から小窓を利用する利用者は4名となる。

### (4) 事故報告・ひやりはっと

4月20日 UT汚物処理槽の蛇口からの浸水事故があり、5月各作業室等の扉の調整、巾木を交換。

報告は8件(転倒事故1件、他害行為6件、その他1件、うち労災事故2件)あり、その都度、保護者に服薬調整、頓服の処方等を医師と相談するよう依頼し対応していただく。しかし、他害への意識が低く、特に服薬調整や頓服薬服用については抵抗もあり、数回にわたり保護者と話を重ねているケースもある。

その他の事故について、作業道具の異食行為(おはじき計101個を食す)の事故があり、排便にて排出、通院にて全て排出されたことを確認されている。事故再発防止のため、口に入りやすい作業パーツの提供をやめ、また作業前後に作業パーツの数を確認し提供した。

#### (5) 四ツ葉園との連携

- ・ショートステイの利用等については相談支援専門員も交え検討した。
- ・避難訓練(5/10、11/6、3/5)、納涼祭(8/10)、ゆめ水族園(10/7)、園祭(10/12)と四ツ葉園行事に参加した。納涼祭、園祭は共同開催するも、利用者の参加が納涼祭は3家族、園祭は2家族と参加数が少なかったため、令和7年度より自由参加とする。
- ・毎月一回 四ツ葉園 MC に一部利用者が参加した。(毎回8名程度)
- ・外周、体育館を借用しウォーキングを実施した。(毎月10日程度)

#### (6) 人権擁護について

強度行動障害を有する利用者が多いことから、身体拘束の最小化を目指して、個別支援会議や身体拘束廃止・虐待防止委員会研修にて、一人ひとりの支援の振り返りをし、人権擁護に努めた。

#### (7) 職員の資質向上

- ・強度行動障害支援者養成研修のファシリテーターとして参加し、強度行動障害の利用者へ知識を高め、支援に努めた。四ツ葉園生活支援センターの支援員5名は強度行動障害支援者養成研修を受講。
- ・利用者の状況に応じてケース会議、担当者会議を実施、また支援手順書は3カ月に一度見直しを行った。

#### (8) 今後の課題

- ・今後も利用者の方が落ち着いて小窓をご利用できるように整えていく。
- ・就業体験を通し、利用希望生徒の情報収集をしながら利用者確保に繋げていく。

#### (9) 業務継続計画

法人の業務継続計画にそって活動しており、4月男性利用者2名コロナ罹患、1月男性利用者1名コロナ罹患するも他への感染は広がらず事業も継続できた。